



朗読かたりの会「風」

カルチャーで朗読を始めた人達が、言葉に命を与える事の大切さ、そして聞いてくださる人の気持を動かせる事が出来るようになりたいと、あらゆる分野にチャレンジしています。

朗読

●群読「六十才のラブレター」夫から妻へ、妻から夫へ ●群読「阿波のたぬき」より「金長狸」かのこ姫の恋心

●語り「平家物語」より義経、昂揚す。

樹齢何才かはわからないが、ずっと変わりゆく人々を見守ってきた木立。石段を登ると神社があり、下を見ると雨の中から始まる舞台がある。朗読するというより奉納する気分になる。木や風や舞台や雨に語りかけている。感動があった。一生忘れられない。運営スタッフの皆様、聞いてくださった皆様、ありがとうございます。(岩瀬弥永子)



竹保流尺八徳島県支部

昭和四十九年十二月発足、古典から現代曲まで幅広い演奏と尺八の普及活動を行っています。

邦楽／尺八・琴・三絃

●編曲民謡調(水野利彦作曲)

●さくら21(水野利彦作曲)

農村舞台の復活が各地で起こっています。芝居などが催されるなど、村の娯楽や地域の交流の場として機能していたこの今山農村舞台は、鎮守の森におおわれてひっそり建ち、素朴な造りの中、演奏をするのにすばらしい雰囲気を作ってくれます。この日は、あいにくの小雨模様でしたが、熱心な大勢のファンの中、尺八・箏で演奏させていただきました。以前から、一度は歴史を刻んだこのような舞台で演奏できればと思っており、演奏にも熱が入りました。次回も是非エントリーできればと願っています。農村舞台の更なる発展に微力ながらお手伝いできればと考えています。(浜井弘保)



朗読サロン「さざなみ」

朗読住友美代子・尺八 浜井弘保 定期的に発表会を実施、また老健施設、病院、児童館、幼・小学校等に朗読ボランティアを行っています。

朗読

●「傾城阿波の鳴門」順礼歌の段

五月三日、今宮神社の鎮守の森での公演は朝から雨でしたが、観客の方より、雨の音と森の緑、そして静かに響くお鶴の語り声、尺八の音色が程良く調和して、別世界に引き込んでくれました。との賞賛の声をいただき、農村舞台でのうれしい初体験でした。

浄瑠璃を朗読するというスタイルも、内容をわかりやすくという、丁山稔彦氏の現代語訳によるものですが、できれば幅広く古事記の現代語訳(福田清人)の「天岩屋戸」とか「因幡の白兔」も演じてみたい。(住友美代子)



勝浦高校民芸部

古くから人形浄瑠璃の盛んな土地柄であり、情操教育と伝統芸能の継承を目的に昭和三十九年に創設。阿波人形浄瑠璃フェスティバル勝浦や全国高等学校総合文化祭をはじめ各地で公演を行っています。

人形浄瑠璃

●「傾城阿波の鳴門」順礼歌の段

今年の今山農村舞台での公演は、朝から雨が降りどうなるのか心配でした。そして、いざ本番。大勢の人の前になると、ホールとは違って自然の光なので、観客の顔がはっきり見え、最初はいつもの緊張しました。でも、自然の中ということとでなんだか解放された気分の人形を動かすことができましたように思います。

農村舞台という貴重な場所で行えた経験を今後の公演に生かしたいと思います。(勝浦高等学校三年 山田愛美)



勝浦座

勝浦座の前身「久国座」の発足は約二百年前にさかのぼります。戦争の激化によりいったん解散しましたが、昭和二十七年に勝浦座として再建、復活しました。県内外で年間二十回を越える公演を行っています。

人形浄瑠璃

●「傾城阿波の鳴門」十郎兵衛住家の段

まず、私たち勝浦座の人形を農村舞台に出演させていただいたことに感謝いたします。色々な分野の多くの方が出演し、たくさんのお客様がそれを楽しみ、昔日の集落の娯楽がそこにあつたように感じました。ホールのように細部にまで照明が当たるのと違って、全体をポーと楽しむ農村舞台ならではの良さがあったのではないのでしょうか。運営いただいたみなさん、ありがとうございます。(池内勲)



DC, Flap

ジャズダンススタジオですが、幅広く色々なジャンルの音楽を使って、見てくださる方々に楽しんでもらえる表現を目指しています。洋楽はもちろん、和、古典とさまざまな音楽に挑戦していきたいと考えています。

舞踊・創作ダンス

●火振神事 ●神々の詩 ●森渡り

●月のしずく ●Constructors ●Festivo

農村舞台の幻想的な雰囲気。その中に私たちの踊りでどこまで溶けこめるか。浄瑠璃等とは違う空気や臨場感をお客様に感じてもらいたいという気持ちで強くありました。歴史のある農村舞台と現代のジャズダンス。古く大切な物との交流を実感した貴重な経験をさせていただきました。「演じる」という形で、これからもいろいろな場面で関わらせていただきたいと思います。(東田眞紀子)



ハーモニカ・スミッテイ

今から百年程前、アメリカ南部の綿花畑で生まれた音楽、ブルースをハーモニカで演奏しています。

洋楽／ハーモニカでブルース

●ハーモニカ演奏

優しい雨が農村舞台を包んでいた。舞台の上に立つと心地良い緊張感に満たされて、感覚が研ぎ澄まされていくのを感じた。僕はハーモニカを唇にあてが、その感覚を頼りに即興演奏を始めた。舞台の上には僕一人だけれど、農村舞台が育んできた歴史や文化や人々の営みが僕語りかけてくるのがはつきり分かった。僕は体全体でそれに答え、一体化した。

大地に染み込んだ雨はやがてせせらぎになるという。僕はその場所を訪れたことがないのだけれど、農村舞台はまさしく文化のせせらぎが始まる場所だ。(住友孝嘉)



青木良樹

地元勝浦から誰も出演しないのは、ちょっと寂しい気がするので応募させていただきました。

洋楽／ピアノ独奏

●ショパン作曲エチュードより「別れの曲」「革命」「エオリアンハーブ」

その日は雨だった。私が一番心配していた雨。なぜなら私の演奏は、水気に弱いパソコンを使用するものだから。案の定、パソコンがフリーズ状態となり予定していた最後の自作曲はキャンセルせざるを得なくなりました。でも、公演は中止されず演奏ができた本当によかった。

私は文化の森やコスモホールでの演奏経験はあるが、半野外での演奏は全く初めてであり、また、地元ということを知り合いも多く、プレッシャーも特別なものだったが、とてもいい経験となった。